

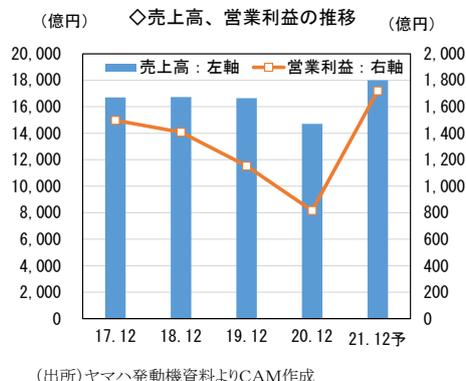
# 企業ニュース ヤマハ発動機

(東証1部：7272) <https://global.yamaha-motor.com/jp/ir>

作成者：奥村義弘

## 二輪車、マリン、ロボティクスなどを手掛ける

1955年、日本楽器製造（現ヤマハ）より分離独立して発足、二輪車の生産販売を行う。1960年にボート、船外機、1984年に四輪バギー、産業用ロボット、1989年に産業用無人ヘリコプター、1993年に電動アシスト自転車販売を開始するなど、業容を広げてきた。21.12期・第3四半期累計のセグメント別売上高（利益）構成比は、ランドモビリティ〔二輪車、四輪バギー、電動アシスト自転車など〕65（39）%、マリン〔船外機、ボート、漁船など〕22（42）%、ロボティクス〔表面実装機、半導体製造装置、産業用ロボットなど〕6（9）%、金融サービス3（10）%、その他〔ゴルフカー、発電機、電動車いすなど〕4（0）%。



## 主要事業がそろって好調、利益率も大幅改善

21.12期・第3四半期累計（1-9月）の業績は、売上高が1兆3,626億円、前年同期比28%増、営業利益が1,546億円、同174%増。第3四半期累計で過去最高益を更新した。営業利益率は11.3%と同6.0ポイント改善した。新型コロナウイルス感染症の拡大による部品不足影響を受けたが、全ての事業で増益となるなど力強いモメンタムを示した。先進国二輪では「密」を避ける手段としての需要などを取り込んだ。販売効率化で黒字を確保した。新興国二輪ではインドネシアやタイが回復、プレミアム戦略の推進で収益性を向上させた。マリンでは大型船外機の需要が好調、水上バイクの販売も改善し、高収益となった。ボートビルダーやディーラーの在庫は依然低水準で、これを補充する動きが続こう。ロボティクスは中国向けに加え、欧米での販売が回復した。

21.12期の通期会社計画は売上高が1兆8,000億円、前期比22%増、営業利益が1,720億円、同111%増。前回予想比で売上高を500億円下方修正、営業利益を120億円上方修正した。第4四半期は、部品調達不足の影響から、売上高を下方修正した。利益面では原材料高の影響もあるが、体質改善の定着など一層の経費コントロールが奏功するとみている。

## 【株価動向・投資判断】

プレミアム戦略が奏功し、想定以上に利益率改善を実現している点が好感できよう。株主還元と資本効率向上のため、110億円（440万株）を上限とする自己株式取得を決議している。

<7272 ヤマハ発 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
19.12	1,664,764 (▲1)	115,364 (▲18)	119,479 (▲13)	75,736 (▲19)	216.8	90.00
20.12	1,471,298 (▲12)	81,672 (▲29)	87,668 (▲27)	53,072 (▲30)	151.9	60.00
21.12 予	1,800,000 (22)	172,000 (111)	178,000 (103)	145,000 (173)	415.6	100.00



【主要株価指標】	(売買単位：100株)
株価 (2021/11/12)	3,170 円
年初来高値 (高値日)	3,380 円 (21/6/8)
同 安値 (安値日)	1,995 円 (21/1/5)
予想 P E R (21.12 予)	7.6 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2,400.9 円
P B R	1.32 倍
予想配当利回り	3.15 %
(1株当たり配当金年100.00円)	
R O E (20.12)	7.5 %
発行済み株式数	35,022 万株